

出題の意図

大学院等：熊本大学大学院人文社会科学教育部 課程等：博士前期課程

専攻：法政・紛争解決学専攻 コース：法・公共政策実践コース

試験の種別：社会人入試

科目等：小論文 地域政策

問 1.

戦後日本の地域政策で、とくに 20 世紀に大きな役割を果たした、全国総合開発計画に関する総合問題である。

5 度にわたる全国総合計画の特徴を、当時の日本経済の状況を踏まえながら、回答できていることが重要である。

このほか、具体的な事例の正確な記載があれば加点する。

問 2.

21 世紀に入ってから、経産省が主導した産業クラスター計画の内容をわかりやすく説明できるかを問うた問題である。（また文科省の知的クラスター創生事業について述べた答案も採点対象である。）

マイケル・ポーターの産業クラスターとは、特定の分野に関連する企業、サプライヤー、大学、研究機関などが地理的に集中し、競争と協力を通じてイノベーションと競争優位を生み出す正の循環を生み出す状況を説明する 1 つの理論である。つまり、この考え方は、なぜ特定の地域が強力な産業基盤を持つのかを説明するのに役立つ。経産省の産業クラスター計画では、地域の企業、大学、研究機関、行政、産業支援機関などが、広域ネットワークを形成し、新産業・新事業の創出を目指す政策であった。とくにイノベーションを促進する事業環境の整備、国家戦略上の重要分野として定められた新産業の創出、地域振興との連携による相乗効果を現出することが期待されていた。実際は、2009 年 7 月の民主党事業仕分けにより、産業クラスター計画予算は 2009 年度で打ち切りとなった。文科省の知的クラスター計画は、大学や公的な研究機関を中心に、企業や関連機関が連携して技術革新と新産業創出を目指す地域主導の取組みを通じて、地域経済活性化と世界水準の技術開発を目的とし、2002 年度から開始された計画である。キーワードは大学もしくは公的研究機関で、これらの知識に基づき人的ネットワークや共同研究を通じてイノベーションを連鎖させる「技術革新システム」を、ある特定の地域に集積させる試みである。

このほか、具体的な事例の正確な記載があれば加点する。